

持続可能な地域社会に向けた小田原のTRY



おだわら市民学校公式ロゴ

人と人とのつながりによる 「いのちを守り育てる地域自給圏」 の創造

神奈川県 小田原市

◆ 課題解決のフェーズの転換

激しい社会経済環境の変化・先行きの見通しの厳しさ



受動

- 過去からの課題解決
- 既存事業の最適化



- 「持続可能な地域社会モデル」づくり
- 「新しい小田原」へのチャレンジ

能動

2008年

問題解決能力の高い地域へ

◆ 小田原のまちづくりとSDGs

総合計画「おだわらTRYプラン」（2011～22年度）

【実現する未来都市像】

市民の力で未来を拓く希望のまち

- 【3つの命題】
- 新しい公共をつくる
 - 豊かな地域資源を生かす
 - 未来に向かって持続可能である
- 【4つの目標】
- いのちを大切にする小田原
 - 希望と活力あふれる小田原
 - 豊かな生活基盤のある小田原
 - 市民が主役の小田原

後期基本計画（2017～22年度）で示す姿

持続可能な地域社会モデル

同義

豊かな資源に恵まれ、さまざまな可能性に満ちた小田原の地で、緩やかな経済成長と人口減少の時代においても、向こう50年、100年と歩みを続けていくことのできる「持続可能な地域社会モデル」は、SDGsにおける2030年のあるべき姿と重なる

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

2030年

- いのちを支える豊かな自然環境がある
- 自然と共存し人々と手を携えていく意識と力を持つ人間が育っている
- 基礎的な社会単位である地域コミュニティの絆が結ばれている
- 人が生まれ、育ち、暮らし、老いていく、その営みを、社会全体が敬意を持って支えている
- 喜びも苦しみも、みんなで分かち合う文化や仕組みを、社会として共有している
- 地域の資源を生かした、地に足の着いた経済活動が根付いている
- 暮らしや経済を支えるさまざまな社会資本は、計画的にメンテナンスが施され危ない状態にある
- 地域の運営をつかさどる基礎自治体は、地方政府と呼べる総合力と、市民一人ひとりへの細かな配慮を併せ持っている

【大切にしたい3つの視点】

人間の未来を考える / 「共」の再生を考える / ライフサイクルを考える

◆ 人と人とのつながりによる「いのちを守り育てる地域自給圏」の創造



恵まれた自然環境、地勢条件、歴史的に育まれてきた技や人、地域の絆の強さといった本市が有する社会的資源を最大限活用し、いのちを支えるために必要な要素（空気、水、食料、エネルギー、住まい、お互いを支え合うケア、教育、ものづくりの技術、地域コミュニティ）が地域の中にバランスよく整っている、「いのちを守り育てる地域自給圏」を創造し、豊かで、安全で、持続可能な暮らしを実現する

- 一次産業の基盤強化と暮らしへの定着
- 観光(交流)による地域活性化



- 伝統的な地場産業の支援と育成
- 高技術・高品質のものづくりのPR促進
- 有機農業モデルタウンの取組
- 「木づかい」のまちづくり
- 農産物・水産物の地産地消とブランド化

- 豊かな自然を次の世代へ引き継ぐ
- エネルギーの地域自給



- 森里川海オールインワンの環境先進都市としてのブランド確立
- 地域の環境再生・保全活動の推進
- エネルギーの地域自給に向けた取組
- 森林の再生
- 里地里山の再生と整備
- 水辺環境の整備促進

- 地域コミュニティ組織の強化
- 地域資源を生かした協働の推進



- ケアタウンの推進
- スクールコミュニティの形成
- 地域コミュニティの強化
- プロダクティブ・エイジングの推進

◆ “現場での学びと実践の循環”による人材・担い手育成と地域課題の解決

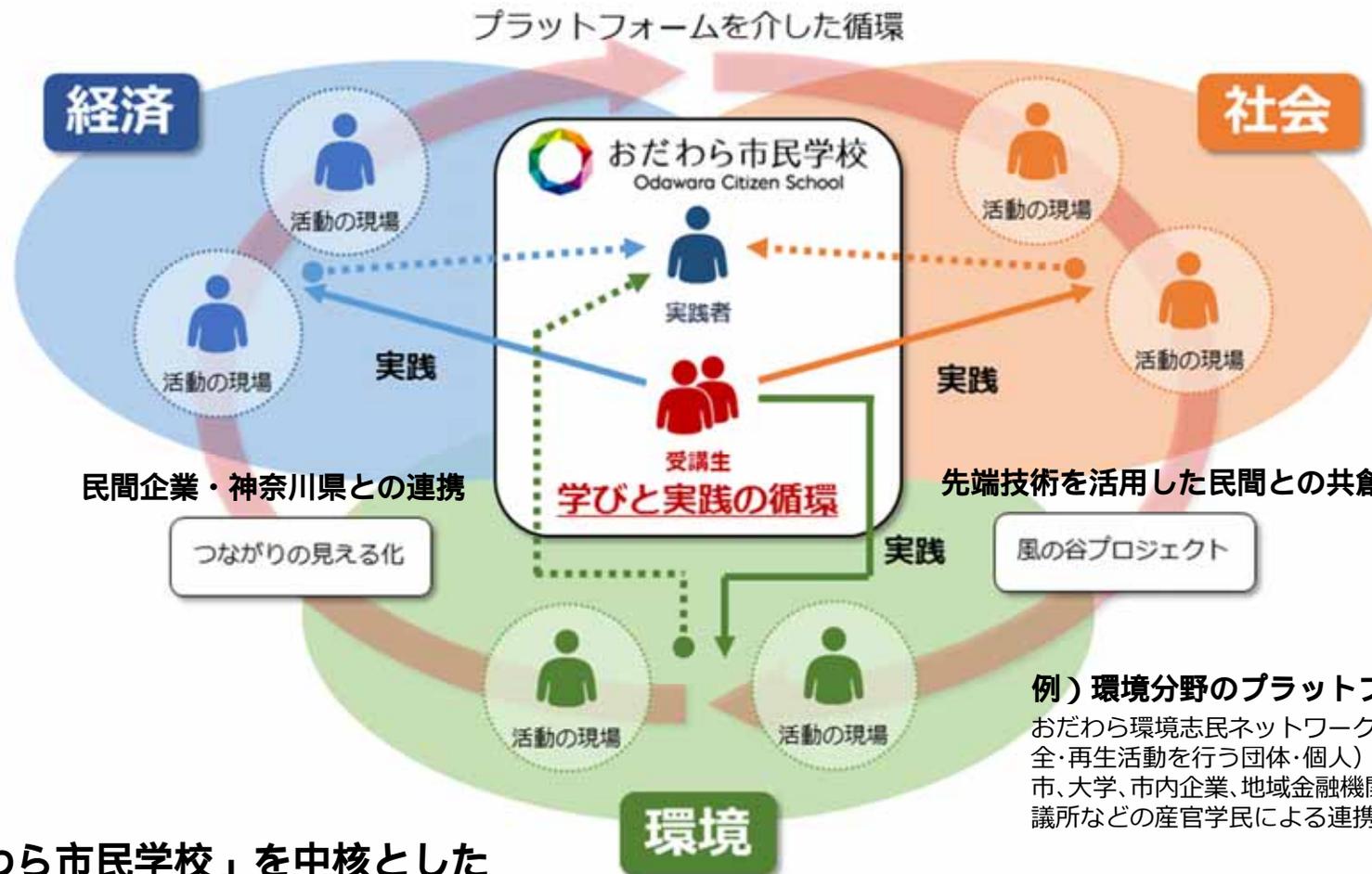
問題解決能力の高い地域へ

協働の仕組みや地域コミュニティ組織の充実、民間の多彩な活動などを、これまでに着実に推進

統合的取組により進化

「受動」から「能動」へシフト

自分ごととしてまちに関わり、暮らしを気にかけて、楽しみながら、みんなでまちを豊かにしていく



例) 環境分野のプラットフォーム
 おだわら環境志民ネットワーク（環境保全・再生活動を行う団体・個人）、小田原市、大学、市内企業、地域金融機関、商工会議所などの産官学民による連携体制

「おだわら市民学校」を中核とした
 統合的取組の全体像

屋台骨となる人と人とのつながりを統合的に生み出す①おだわら市民学校をベースに既存の取組をつなぎ、②つながりの見える化、③風の谷プロジェクトをあわせて発展させていく

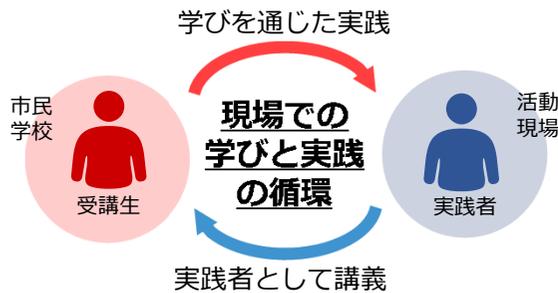
◆ 現場での学びと実践を循環させる「おだわら市民学校」



人の力を育む開かれた学びの場として、官民連携により2018年度に開校(1期生55名)。2019年度の専門課程は、年間10回程度の学びの場を通じて、課題解決の理解を深め、現場とのつながりをつくる



フィールドワークの様子



【8つの専門課程とステークホルダー】

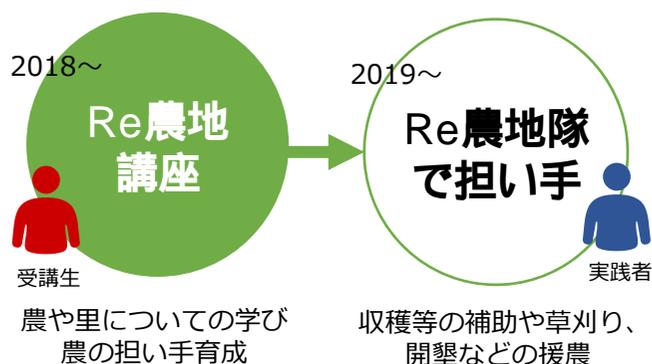
- サポートの必要な人を支える (社会福祉協議会、福祉事業所他)
- 子どもを見守り育てる (小田原短期大学、教育委員会他)
- 自然を守り育てる (環境志民ネットワーク、大学他)
- 地域の文化力を高める (文化連盟、民族芸能保存会他)
- 地域を元気にする (自治会総連合、まちづくり委員会他)
- 郷土の魅力を知り伝える (市学芸員、ガイド協会他)
- 地域の生産力を高める (J A、梅研究会、パン職人他)
- 二宮尊徳の教えを継承する (二宮尊徳いろりクラブ、大学他)



2019年度【専門課程3】自然を守り育てる

回	日程	内容	講師
1	6/1	オリエンテーション（小田原の自然環境を知る）	パシフィックコンサルタンツ(株)
2	6/15	小田原の自然に触れる①（沼代の棚田で田植え体験）	サシバプロジェクトチーム
3	7/18	小田原の自然に触れる②（海から見る小田原の自然）	石橋ダイビングセンター、東大海洋実験場
4	7/27	おだわら市民学校公開講座	神野直彦 名誉校長
5	8/18	小田原の自然に触れる③（久野里地里山野遊び探検）	美しい久野里地里山協議会
6	9/7	小田原の自然に触れる④（獣害の実態、罾猟による獣害対策）	おだわらイノシカ捕獲ネットワーク
7	10/3	グループワーク（前半の振り返り）	市環境政策課、生涯学習課
8	10/30	小田原の自然環境を学ぶ（地質などから分かる小田原の自然）	県立生命の星・地球博物館 名誉館長
9	11/23	小田原の自然に触れる⑤（小田原の放棄竹林、竹炭づくり）	環境志民ネットワーク、東京都市大学
10	12/15	小田原の自然に触れる⑥（おひるねみかん収穫祭）	合同会社小田原かなごてファーム
11	1/18	小田原の自然に触れる⑦（山の適切な管理、枝打ち間伐体験）	NPO法人小田原山盛の会
12	2/4	小田原の自然環境を守るために（振り返り）	環境志民ネットワーク、市環境政策課他

学びから実践への展開（本市先行事例:Re農地講座・Re農地隊）



+ 関係人口の獲得

Re農地隊で活動する仲間（2019.4結成）

- 地元大手企業の知的財産関連部署で長年働く男性
- 外資系コンサルタントで週末は森づくりや地域文化活動にも参加する男性
- 新たに小田原に移住し新規就農を目指す男性
- 様々なキャリアを経て地元での就労を目指す女性
- 環境系の会社にて獣害を専門に研究している男性
- 国際的なNGOで勤務する都内の女性 等

◆ 産官学連携によるSociety5.0の実証研究

- 産官学にわたる各領域の専門家が集結し、都市に対する代替案をつくることを目的として、Society5.0に盛り込まれているような最先端の情報化・自動化などの技術を、地方都市が抱える様々な地域課題の解決に結び付けていく。こうした実証研究を、小田原をフィールドとして展開していく取組
- 都市化が過熱し工業化・情報化の果てに、自然との調和が崩れ人間性が磨滅していく未来ではなく、自然と人が調和し、人間性豊かな地域社会を育てて行く未来を目指すもので、そのモデルイメージを「風の谷」と捉えている



フィールドとして的小田原

実証研究の例（予定）

- 道路の用途・仕様の再定義と新たなモビリティサービス
- 上下水道に頼らないオフグリッド・循環型水道システム

各領域の専門家（予定）

- AI×データ時代の人材育成や産業革新に幅広く関与する慶応義塾大学 SFC環境情報学部教授
- Society5.0をはじめ政府の戦略策定に関わりつつ地域の未来づくりを支援している方
- 国内屈指のランドスケープデザイナー など

一次産業の基盤強化と暮らしへの定着
地場産業の支援や育成、農林水産物の地産地消
やブランド化、木づかいのまちづくりなど

豊かな自然環境やライフスタイルの提供、新たなビジネス創出
などによる交流・関係人口の増

一次産業の基盤となる豊かな自然環境の適切な保全、多様な生態系の維持、鳥獣被害の減少

実態を伴った環境先進都市としてのブランド確立

身近な環境再生・保全活動、森林、里地里山の再生、エネルギーの地域自給に向けた取組など



社会

【市民学校】地域を元気にする など



経済

【市民学校】地域の生産力を高める など

環境再生や保全活動、自然と共存する環境整備、エネルギーの地域自給の取組
森林、里地里山、水辺の環境など

地域組織の環境活動への参加促進、豊かな自然環境を次世代に
引き継ぐ意識の醸成

物理的・意識的な地域の防災・減災力の向上、しなやかで持続可能な地域社会の創出

地域コミュニティ活動の強化と地域資源を生かした協働の推進

子どもの育ちの空間や遊び場づくり、シニアの活躍機会創出など

地産地消や地場産業の価値の高まり、一次産業の暮らしへの定着促進

他分野との連携や多様な働き方などの関わりしるの拡大

耕作放棄地対策や生産物の収穫・加工の現場など



環境

【市民学校】自然を守り育てる など

地域における他人・他世代を気にかける「ケア」の取組の増加

ケアタウンの推進、スクールコミュニティの形成、地域コミュニティ組織の強化など

シニアや障がい者の活躍の機会創出、誰もが生きがいを持って暮らすことができる社会の実現

3つの官民連携による取組を「受動」から「能動」へのシフトのレバレッジとして、経済・社会・環境分野の現場における異分野のつながり、イノベーション、そして新たな価値創造を「人」を介して巻き起こしていく

◆ グッドサイクルと「公・共・私」のベストミックス

- ① おだわら市民学校での学びと実践は、暮らしの現場での人材や担い手につながり、多くの方が経済・社会・環境の課題解決の取組を通じてそれを享受する
- ② つながりの見える化においては、地域資本の気づきを通じて、暮らしの現場での課題解決の取組への参画や、暮らしの現場でのつながりの価値の浸透に寄与する
- ③ Society5.0の実証研究「風の谷プロジェクト」においては、持続可能な暮らしを体感するとともに、暮らしの現場での実装に向けた取組につなげていく

